

慢性心不全の急性増悪から自宅療養、旅立ちまで —琉球王朝士族出身の父の誇りを守ったホメオパシー—

CH15 小田悠紀之

【はじめに】

1月1日に自宅で父を看取りました。慢性心不全の急性増悪で倒れ、医師からは24時間以内に心臓が止まる可能性が高いと言われましたが、レメディーのお陰で一命をとりとめ、一カ月間の自宅療養を経て、旅立っていった模様を、感謝を込めてお話し致します。

【主訴(症状)】…… 85歳 男性 慢性心不全の急性増悪 完全房室ブロック

目と口をガツと開き、全身が硬直し、冷たく、顔色が鉛色。鼻先にチアノーゼ。脈は40ぐらい(高齢者の正常値60~70)。血圧も血中酸素濃度も測れないくらい低い。

【経緯】

まず、父の事を紹介いたします。

昭和13年生まれ。85歳。代々、琉球王朝に仕える士族の家系に生まれました。

疎開先で終戦を迎え、小学1年生で教科書の墨塗りを経験し、戦後は沖縄で育ちました。この経験は、世の中の動きに興味を持たせ、真理を探究する事に繋がっていったようで、父の本棚には、歴史、国際政治、宗教、教育、数学、日本の国体や天皇家についての愛国の書など、様々な分野の本が並んでいました。

また、とてもやんちゃで、小学生の時から米軍のタバコを吸ってみたり、米軍が置いて行った実弾入りの銃で、隣の小学校と打ち合いをしたり。なので、父親からは、「君は士族の出身なんだよ」と、厳しくしつけられて、木に縛られたことも度々あったそうです。

自分の意志を曲げないところがあり、成績優秀で、親せきが大学の学費を出してくれると言ったそうですが、人から出してもらってまで行きたくないと大学へは行かず、高校の恩師から誘われて、ブラジルへ渡ろうと重機の技術を身に着けました。また、クレーンの運転手の仕事の休憩時間に、車の中で好きな読書をしていたそうですが、注意をされると、せっかく、技術を買われてお給料の良い大手の会社に引き抜かれていたにもかかわらず、好きな読書をして、うるさく言われない、友人の経営する会社に移ったほどでした。

父が母とともに私の家族と同居したのは80歳から。早朝の散歩を欠かさず、元気で車の運転もし、民生委員もつとめ、薪も割ってくれて、本当に良く働いていました。

84歳の12月に早朝の凍った坂道で転倒して、背骨の圧迫骨折をしたのを始めに、急性心不全、脳梗塞、コロナの肺炎と、次々に体調を崩しました。6月からは足の浮腫みと息苦しさがありましたので、心臓が悪いのだと思い、ホメオパシーの健康相談を受けてもらい、病院へ行きました。心房粗動、心房細動の不整脈で、胸水もありました。

11月から在宅診療の医師に主治医になってもらいました。

そんな、12月2日、土曜日の朝でした。

高校生の息子が2階から降りてきて、「お母さん、お祖父ちゃんが呼んでいる」というのです。

何だろう？と思って階段を上がると、父が床に座って、硬直したような感じで、口と目をガツと開

けて、鼻水を垂らしているのです。慌てて顔に触ると、凍るように冷たい。顔も鉛色。とつさに、心臓が止まりそうなのだと分かりました。

【レメディー選択】

Acon. (ヨウシュトリカブト) 心臓・急性のショック(心身の)・体が冷たい

Carb-v. (木炭) 酸欠・蘇生、生き返りのレメディー

Ars. (三酸化砒素) 成仏への道案内のレメディー・死に対する恐怖・生への選択をゆだねる

すぐに Acon. を口に入れました。そして、すぐに、主治医の指示で救急車を呼びました。

救急車を待つ間、何度か Acon. をリピートしました。すると硬直感がなくなり、主人に支えられながら、ベッドまで歩けました。

救急隊が到着した時には、少し顔色が良くなっていました。すぐに、脈や血圧、血中酸素濃度を測りました。すると、脈は 40 ぐらい。血圧も血中酸素濃度も測れないくらい低い事がわかりました。「そうか、酸素が足りないんだ」と救急隊に感謝しながら、私は震える手で Carb-v. を口に入れました。

救急隊は主治医に電話をかけて、父の状態を報告してくれました。父の意志と、主治医の判断で、入院はしない事になりました。私は搬送拒否という書類にサインをしました。

主治医が来るまでの間、何度か Acon. と Carb-v. をリピートしました。

主治医が来て、父を診たら、血圧は上が 70 代に上がっていました。

父には、「24 時間以内に心臓が止まる可能性が高いけど、入院しなくていいんだよね？ 延命治療しなくていいんだよね？」と確認していました。そして、鼻先のチアノーゼを見て、「間に合うかな？」と言いながら、車で 1 時間ほどの甲府から酸素の機械を取り寄せてくれました。

私には、「この状態で話せる事がすごいんだけどね。呼ぶべき人を呼んで。もし、今日、持っても、一週間持つかわからない。私ができることはもう、そうありません。心臓が止まって、呼吸が止まったら、呼んで下さい」と帰られました。私はそんなに悪いのかと思い、すぐに井手ホメオパスへ電話をして、レメディーの選択を仰ぎました。「Ars. です」と教えて頂きました。その時の私の Ars. のイメージは、成仏への道案内のレメディーでしたので、Acon. と Carb-v. で死なないようにしているのに、Ars. であの世へ送るのかと、とても驚きました。が、死に対する恐怖を取り去り、心が穏やかであれば、死ぬにしても、生きるにしても、一番良いようになるであろうと理解しました。

そして、方々へ連絡しながら、Ars. をリピートして、酸素を待ちました。

【結果】…… 一命を取り留めました。

倒れてから 3 時間後、酸素が入るとみるみる顔色が良くなり、血中酸素濃度が 98 になりました。私は Carb-v. をとっていたお陰だと思いました。しかも、Ars. のお陰か、自分の死を冷静に観察して研究しているようで、沖縄の父の弟との電話では「もう少し、生きるみたい」と大きな声で話したり、東京から駆けつけた私の妹とは、「魂が抜けるって、こういう感じかと思った」と、驚くほど元気に話していました。

その妹は、5 年間、父と絶縁状態で、「お父さんのお葬式の時しか行かない」と言っていたの

ですが、5年ぶりに再会し、心を通わせる事が出来ました。

後日の診療で主治医からは、完全房室ブロックが起きて、血液を送り出せなくなっていたのかもしれないと言われました。

私は、助かるときは、すべてが助かるように回っていると感じました。

そこから一か月間、レメディ―とマザーチンクチャーでのセルフケアをし、井手ホメオパスの健康相談を受け、在宅診療、在宅看護にお世話になりながら、自宅療養をいたしました。

その間、父は、ホメオパシーのお陰で、過剰な医療で苦しむことなく、最期まで、痛いとも苦しいとも言わず、なんでも自分でやろうと一生懸命生きていました。

最期にArs.を一粒口にして、1月1日に、静かに旅立っていきました。

父が亡くなった翌日の夜、高校生の息子に「おじいちゃんが亡くなって、どう思う？」と聞くと、「良かったと思う。人間としての尊厳を守ったまま、逝けて。薬漬けにもならず、管に繋がれて寝たきりにもならず、オムツにもならず。理想の死に方だ。自分もそうありたい」と言ってくれました。

私は、最期の数分、父を一人にしてしまったことを後悔していました。1月4日の朝、「お父さん、最期、一人で寂しくなかったですか？」と、青空に向かって聞いていました。すると、その日、父の担当のプランナーさんが父の顔を見に来てくださいました。そのことを話すと、「お父さんは、最期を見られたくなかったんじゃないですか？心配そうに家族に囲まれて逝きたくなかったんじゃないですか？耳が良かったから、リビングで親戚が集まって、お節を囲んでいる声を聴いて、安心して逝ったんじゃないですか？」と話されました。私は、ハッとしました。5年間、絶縁状態だった娘が、孫を連れて私たち家族のもとへ帰ってきてくれた。皆でお節を囲んでいる。その声を聴きながら、安心して、逝ったのだ。これが、父の答えだとわかりました。

後日、井手先生から、___Ars.は、魂と精神と体を繋ぎバランスをとる作用の深いレメディ―です。死すべき人は死に、そうでない人は生きる、魂の選択を助けるものでもあります。あのとき、私がArs.一択だと言ったのは、お父様に「**生への選択を委ねる**」ためでした。私がArs.を選択することは、間接的に、お父様の選択を尊重させていただくことでもありました。お父様の高潔な「魂」は、雪之さんのために生きることを選択したのだと私は思っています。___と教えていただきました。Ars.に、このような深い意味をもって、選択していただいたことに、感動しました。そして強く、私も魂のホメオパスになりたいと思いました。と、同時に、あの時助かった事も、旅立った事も、父の意志であったのかと驚きました。

【考察】

心臓が止まりそうな時であるにもかかわらず、倒れてから酸素が来る3時間もの間、心臓マッサージも人工呼吸もAEDもしない中、レメディ―のお陰で命を繋いでいただきました。それは、**生への選択をゆだねる**というArs.が、気がかりな娘たちのために生きたいという父の意志を助けてくれたからだと思います。その後の自宅療養中も、ホメオパシーのお陰で、過剰な医療に苦しむことなく、最期まで父の人間としての尊厳、琉球王朝士族としての誇りを守っていただきました。そして、娘たちの成長を見届けた後は、Ars.によって、颯爽と霊界へ旅立っていきました。